

教授インタビュー

経済学研究科 村宮先生に学ぶ

「企業の成績表」とは？

株価を動かす会計情報

—先生の研究内容について教えてください。

僕が研究しているのは「会計学」という学問です。企業って、会社の現状はこんなんですとか、過去一年はこんな成果がありましたよっていう「企業の成績表」を作成するんですね。ここでみんなの成績表とは違う点が二つあって、一つは、その成績表は一定のルールに従って企業自身で作るというところです。もう一つは、成績表をみんなに開示しないといけないところ。その成績表を作成し開示するまでのプロセスを研究するのが会計学という学問だといわれています。僕は、企業がその成績表を開示した時に人々がどんな反応をするのかにすごく興味があるんです。成績表っていろんな人の意思決定に役立てられてるんですよ。例えば銀行は成績表を見てその企業の健全性や将来性とかを判断して、

その企業にお金を貸していいのかという意思決定をします。僕が一番関心を持っている株で言えば、成績表を見て人が株を買うか買わないかの意思決定を行い、その結果、株価が変わるんですよね。ですから会計情報は株価を動かす重要な一要因なんです。

もうちょっと具体的な話をしましょう。理想的な世界では、みんながある企業について知っている情報ってその企業の株価に全部反映されてるんです。そうになると、今知ってる情報をもとに取引を行っても儲けられないんですよね。だってその情報はすでに株価に織り込まれてるから。将来、例えば一年後はみんなが一年後知っている情報によって株価は動くんです。その情報を今の段階では知らないから、僕らは将来の株価を予測できないんです。だから会計情報をいくら知って分析したところで、僕らが将来の株価の動きを予測することはできない。そういう考えが昔は結構支配的だったんですね。でも、1980年以降に、会計情報って実は株価に織り込まれてなくて、その情報をもとにしたら儲けることが出来るかもしれないっていう証拠がアメリカを中心に結構たくさん出てきたんです。

僕は日本の株式市場を対象に、会計情報のどの部分が株価に織り込まれていないのか、何でその情報が株価に織り込まれていないのかをメインに研究してます。

—先生はWeb上でも講義をされていますね。

そうですね。企業から声をかけてもらって始めたんですけど、結構反響があって。僕は阪大に来るまでは研究所にいたんで、教育って面白いのかどうか分からないと思ってたんですけど、やってみるとすごく面白くて。自分は研究も好きだけど、教育も好きかもしれないって気づいたんですね。現代ってYouTubeとか、今やってるオンライン講義とかいろんなツールがあって、阪大生だけじゃなく日本中の人に見てもらえる可能性がある。自分がちゃんと教えられる内容に関してより多くの人に発信できれば、僕にとってもすごく嬉しいし、ちょっとですけど社会に自分の知識を還元することが出来ると思っています。特に、会計は企業が経営する中ですごく重要な役割を果たすので、会計がわかってないとうまく企業活動を行っていくことが出来ないと思ってるんです。だから、多くの人に、とりわけ今企業に勤めている人にそういった知識を提供することで、日本企業の経営がうまくいくようになればいいなというちょっと高い志はあります。

遊び続けた学部生時代から、 人生初のガリ勉へ

—先生の学部時代はどんなものでしたか。

ほんとに何も勉強してなかったんです。高校まで1時間に1本しか電車が通らないような、しかも電車じゃなくて車で、そんな田舎に住んでたんです。早く都会に出たい、早く一人暮らししたいって思って、入学したらもう遊ぶしかないじゃないですか。田舎とは全然違うし遊ぶところばかりやんって思って。タガが外れたみたいに遊びに夢中になりまして、何も勉強せずに夜まで遊んでゲームして麻雀して、朝日が昇ってから寝て、昼に起きて学食行って、授業出ると思いきや出ずに帰るみたいな日々を送ってたんですね。でいざ就職活動しようってなった時にこのまま社会に出たらすごい落ちこぼれちゃうなって思ったんです。その時に大学院っていう選択肢もあるって聞いて、大学院に行けばこの生活がまだ続けられるって気づいて。しかも大学院って博士課程まで行ったらあと5年はモラトリアムが延長できる。じゃあ大学院行くかと思いました。それで大学院行くために勉強し始めたんですけど、勉強する中で、モラトリアムをエンジョイするために学部時代にやっていなかった勉強を頑張ろうって自分の中で目覚めたんですよね。そこからは人生初めてのガリ勉です。大学院入ってから論文を毎日頑張っていっぱい読んで、でも最初の方は何書いてるかわからないから専門書読んで勉強

して、論文読んで、みたいな感じで。何もしなかった学部時代から、勉強頑張ったほうが面白そうやんと思って勉強し始めた大学院生時代でした。

ー阪大生へのメッセージをお願いします。

伊坂幸太郎の『砂漠』がすごい好きで、終盤で「学生時代を思い出して、懐かしがるには構わないが、あの時は良かったな、オアシスだったな、と逃げるようなことは絶対に考えるな。そういう人生を送るなよ」という節があるんですね。僕がこの本を読んだ時って博士課程のときなんですけど、周りはみんな就職してもう社会人として活躍してる中で自分はまだ学生っていう身分じゃないですか。周りも優秀な人ばかりで他人と比べて落ち込んで。大学生のときはキラキラしてて楽しかった思い出がいっぱいで、大学生のときは良かったなーとかすごい思ってたんですよ。でもこの『砂漠』を読んだときに、あーこれじゃダメやなって。もちろん懐かしんだりはするけど、あのときは良かったなあとか帰りたいなあっていうのはやめようかな、今頑張ればいいかって切り替えられて、前を向いて頑張ろうと思えた一節だったんです。大学ってすごい豊潤な時間で、その中でとにかく何でもいいから謳歌してもらいたいんです。自分なりに、サークルでも部活動でも何でもいいと思うんですけど、いい人間関係を作って、みんなで謳歌してもらいたくて。そのあとは、懐かしがるのはいいけど、前を向いて歩いて行ってもらい

たいなって感じですね。あとはぼちぼちやってくださいっていうのが好きで。阪大生見てて思うんですけど、例えば就職活動一つとってもすごい肩に力入ってるんですよ。いいとこ就職しないと！って。まあそんな肩に力入れずにぼちぼちやったらいいやんって思ってて。別に単位取れなくても、就職決まらなくても、それで人生決まるわけじゃないですし、もうちょっと気持ち楽にしてやればいいやんって思ったりしますね。

お話を伺ったのは

大阪大学 経済学研究科 経営学系専攻

村宮克彦 准教授

HandaiWalker ってなあに？

HandaiWalker は、大阪大学生協学生委員会 (GI) 広報局が 2 カ月に一度発行している生協機関紙です。教授インタビューやおもしろ実験記事、みんなが気になるアレコレを調べてみる記事など、多くの記事を掲載しています。食堂や図書館などに置いてあるので、ぜひ手に取ってみてください！！

GI では HandaiWalker の他にも、オープンキャンパスでの相談会開催や、学祭での環境活動、生協の食堂や書店とのコラボ企画を行っています。ただいま部員募集中です！新入生の皆さん、ぜひ一度見学に遊びに来てくださいね！



生協学生委員会公式マスコットキャラクター ゴーちゃん

HandaiWalker

Web 特別号

教授インタビュー

国際教育交流センター
村岡貴子先生に聞く！

アカデミックな 日本語とは？

留学生への日本語教育を行う国際教育交流センターの村岡先生に研究内容をインタビューしました。

—先生の研究内容について教えてください。

私は国際教育交流センターで本学の学部・大学院に在籍する留学生を対象に日本語教育を行っています。吹田キャンパスと豊中キャンパスの両方で仕事をしています。

吹田では、日本語集中コースという大学院生と研究生を対象とした毎日行われるコースと、

大学院生に対する学際融合教育科目、および研究生に対する選択コースにおいて、それぞれ研究活動に必要とされる日本語コミュニケーションのための教育を行っています。大学院生に対する学際融合教育科目、および研究生に対する選択コースにおいて、それぞれ研究活動に必要とされる日本語コミュニケーションのための教育を行っています。

豊中では、特に学部1・2年生向け共通教育の「専門日本語」という科目を担当し、かつ、大学院言語文化研究科においては、一般日本人院生・留学生ともに、博士後期課程まで研究指導を行っています。私の研究テーマは、アカデミックライティング教育研究、および専門日本語教育、すなわち、Japanese for Specific Purposes、中でもJapanese for Academic Purposesで、関連の教材の開発もしています。

前任の大学では、教育学部に属し、留学生に日本語を教えていました。農学系の学生に教えることが一番多かったです。日本語学習が必要な留学生のために、多様な農学系の学術雑誌の論文に使用されているアカデミックな語彙の調査をしました。当然、私の専門分野とは異なるわけですが、その結果、語彙の使用傾向が一定程度あることがわかり、

特に、パターン化された表現についても新たな知見を得ました。農学では、「認められる」「考えられる」といった受け身形での動詞や、「供試する」「採取する」などの「漢字二字＋する」動詞、変化を表す「～なる」という動詞が多く、また形容動詞は「明らかな」「必要な」「有意な」なども現れます。さらには機能語としての接続詞（例：および、また）はひらがな表記が多いことなど、多くの使用傾向がわかりました。それらは、論文だけでなく、口頭発表や通常のコミュニケーションにおいても使用されているものが少なくありません。

ただし、当該の留学生が語彙だけを知っていても日本語の運用には不十分なため、まず文型の調査をし、続いて文章構成や論理展開なども調べました。序論は「緒言」と言われ、そのあとは、「材料および方法」「結果および考察」といった典型的なセクションが続き、それぞれにおいて、典型的な文型や情報の提出順序が見られることもわかりました。工学系の多くの実験系なども類似のものです。これらは発表の際も基本的には同様です。いずれも、日本語教育にも有用なデータを得たと言えるものでした。ここが、現在の私の教育と研究につながるスタート地点でした。

さらに、阪大に来てからも工学系、医学系、理学系の使用言語を、複数の他大学の研究者との共同研究によって調査分析を進め、実際に日本語が必要な分野はどこなのか、について検討しました。その結果、例えば医学、数学、化学、物理学などの基礎研究においては、使用言語としての英語の頻度が非常に高いものでした。一方で、応用科学の分野では、例えば、建築工学や土木工学などの研究は、地震が多発する日本の環境において、日本での研究がかなり進んだ分野でもあります。

もちろん、英語を使わないわけではありませんが、使用言語としての日本語の地位が比較的高く、他分野と比較して、日本語での論文執筆や学会発表の場も多いことがわかりました。そのような分野は、現場主義、地域主義といったキーワードが該当するような場合も多く、現地で必要な情報を現地の人に提供することも重要であるとみなされると言えます。その分野に多い留学生は、中国系や韓国系などの漢字文化圏の、日本語がよくできる人たちで、非常に高度な日本語を運用していることもわかりました。都市計画などの領域では、工学系といっても歴史や文化も関連する社会科学系に通ずるテーマ

あり、高度な日本語能力があっても、抽象的な議論を行うのはしばしば難しい、といった指摘も、当該の指導教員から聞いたことがあり、印象的でした。

一 大学教員としてのキャリアでの印象深い出来事がありますか？

大学院修了後、京都の私立大学で1年間の短期プログラムで教えていたときは、対象は全員アメリカの大学生でした。彼らは良い意味で教育、授業への要求が多く、日本の教育文化とはかなり異なる背景で育ってきた人たちだと思いました。例えば、小テストの中に教科書にはないが難しい表現ではない単語があれば、「教科書に載っていない単語がある」と文句を言ってきたり、提出されたエッセイに丁寧にコメントを書いたら、読むのが少し面倒くさそうな表情で「このコメントも読めないところがあるから私は日本語がまだまだなんですよ」と言ったりするケースもあり、コメントの書き方も考えさせられました。かと思えば、彼らは授業が充実していると感じられたら、「今日の授業、良かったです」と、わざわざ授業後に、評価のコメントをくれたこともあったので、教育文化の違い、あるいは教員と学生との距離が近いというコミュニケーションスタイルの違いも、大いに認識させられました。

もう30年近く前になりますが、その当時でもアメリカの学生による授業評価が、全部図書館に公開されているということで、TAの学生さんへの授業評価も教授や准教授への授業評価も全て公開されていることを、アメリカの大学で長く教鞭をとってきた上司から聞いて知りました。学生の授業評価は教員の給料にも反映されるという背景もあるので、教員側も日本の環境とはかなり異なるわけですが、学生自身も自分で授業料を払い、場合によっては学習ローンで卒業後に返済していくので、自分の支払った学費に見合う教育を提供してほしいという、教育の質への思いが非常に強いことを知った時期でした。

途中アメリカの協定大学にも半年あまり日本語を教えに行く機会があり、アメリカの大学生ばかり合計で4年間ほど教えたあと、次に、四国の香川大学へ異動し、留学生には日本語を日本人など一般学生には日本語教授法などを教えるという経験をしました。そこでは6年半ほど在職していました。例えば、1限に留学生の授業があってインターラクティブな活動を終えてすぐに、2限に今度は日本人ばかりのクラスに行くと、お通夜みたいな状態！わかりますか？

(笑) 彼らはリアクションが薄くきわめて静かだからです。日本人学生の場合、人前で意見を言うことに高校までの間、なかなか慣れてい

ないっていう学生集団だったわけです。授業終わってから、雑談をしていて「おとなしいね」とか言ったら、「私は高校の時にユニークだったので、目立たないように個性を押しつぶしました」とかいう人もいました。でも、静かだからと言って皆さんが不満に思っているわけでもなくて、楽しいときは楽しいとっていて、それを表に出してないということもわかってきました。

一 阪大生に対して、何かメッセージはありますか？

評判通り、阪大生は基本的に真面目です。例えば研究活動も、努力すれば、能力をどのようにも伸ばせる人たちだと思います。そのため、環境が整い、意欲があれば、素晴らしい成果を上げられる人たちだと思います。さらに欲を言えば、他の人とコラボレートする、つまり「協働」することを一層心がければ、もっと視野も広がりますね。留学生をはじめ、自分とは背景や信念が異なる人との出会いとコミュニケーションは、なかなかわくわくするものです。それは勉強や研究だけではなく、社会人としてのさまざまなステップを踏んでいく上で重要なことと思います。

以前、阪大生がある大学ランキングの調査結果で、イノベティブな分野で、高く評価されていたという情報を聞いたことがあります。何かを開拓するとか、創造する、あるいは答えのない問いへの解答を求めて思考し、

行動する、というようなことができる人たちだ、
ということでしょうね。そういう意味では、私たち
教員も、学生さんが心地よく能力が発揮できる
ような学習・教育の環境づくりをさらに考える必要
があるなあと思っています。「イカハン」？い
かにも阪大、という真面目であるDNAを受け継
いでいる学生さんであることを、ぜひ誇りに思っ
てほしいとも思います。

推薦図書

～阪大生にオススメしたい本を聞きました～

外国語を
身につけるための
日本語レッスン

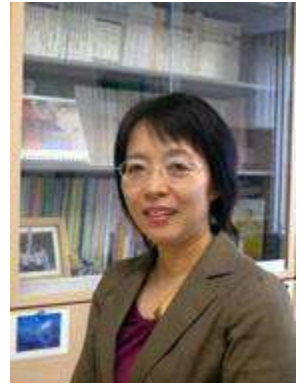
三森ゆりか著
白水社



この著者は日本語教育学の人ではなくて、ドイツへの留学経験があり、言語技術に関心のある研究者です。自分が外国に行って、自身の普段のコミュニケーションスタイルではなかなか相手に話が通じない経験をしたり、あなたの文章がわかりにくいと言われたりした経験があるそうです。

現在は、AIが発達していて、簡単な日本語であれば、自分がその外国語を知らなくても伝えられる状況があります。「母語」によって十分に、かつ適切に表現ができなければ、それを外国語に翻訳できないことになり、翻訳できなければ伝わらないということも生じます。この著者はそのような問題を、さまざまな例を示して書いてくれています。

村岡貴子 先生



今回ご協力いただいたのは
大阪大学国際教育交流センター
副センター長の村岡先生です。

冊子版のHandaiWalker 4, 5月号に
本インタビューを掲載予定でしたが、
緊急事態宣言により、構内での配布が
不可能となったため、ウェブ上での配信と
なっております。

なお、取材日時は2019年12月25日、インタ
ビュアーは文学部3年の福島、工学部2年の
神原です。

HandaiWalker ってなあに？

HandaiWalkerは、大阪大学生協学生委員会(GI)広
報局が2カ月に一度発行している生協機関紙です。教授
インタビューやおもしろ実験記事、みんなが気になるア
レコレを調べてみる記事など、多くの記事を掲載してい
ます。食堂や図書館などに置いてあるので、ぜひ手に取
ってみてください！！

GIではHandaiWalkerの他にも、オー
プンキャンパスでの相談会開催や、学祭で
の環境活動、生協の食堂や書店とのコラボ
企画を行っています。ただいま部員募集中
です！新入生の皆さん、ぜひ一度見学に遊
びに来てくださいね！



生協学生委員会公式マスコットキャラクター ゴーちゃん

HandaiWalker

Web 特別号

教授インタビュー

原子力の 未来を 考える

工学研究科

環境エネルギー工学専攻

原子力社会工学領域

北田 孝典 教授



先生の研究内容について教えてください。

この研究室では「原子力社会工学領域」という分野を扱っています。核燃料がどんな振る舞いをするのか、エネルギーを取り出す原理は何かという問題は核分裂という原子核の反応で考えます。普通の化学の反応は原子の反応だけれども、ここで扱おうとしているのは原子核の反応なので、扱う現象が他の学科とは少し違います。原子核の反応をちゃんと扱うというのが原子力のある意味一番の特徴ですね。原子核が反応して他のものになるようなことをするので、今まで無かったものがたくさんできてしまいます。この研究室では原子力を利用して、大きく2つの研究分野を扱っています。

1つはごみに関してですね。放射能を持つごみをなくすることは基本的にはできなくて、違う原子核に変えてもう少し良い特性のものに変えるというものです。原子炉で使った後の燃料がほぼ無害になるには、10万年くらいかかるのですが、そういう悪さをする物質をもう少し短い時間で害が無くなるものに変換できれば、処理に関しては「ましになる」ということです。今までとは違う原子炉を考えることで、核反応によって原子核の種類を変える核変換という現象をもっとうまく起こせるようにしたい。それによって10万年かかるといわれてたものが1000年とか、場合によっては500年とかっていう時間スケールに近づけられるという話ですね。それをするための、新しいタイプの原子炉の開発が必要になる。日本は原子力に対するアレルギーが大きいんだけど、隣の中国を見たら色々なタイプの原子炉の開発が進められていて、実はそろそろトップランナーになりかねないくらいの勢いなんです。

もう1つは、既存の原子炉や発電所の安全性を高めるような研究です。規制が厳しくなって色んな設備がついたことも当然、安全性を高めたことになります。

でもそれだけではなくて、原子炉や発電所を周りがどのようにサポートすればいいのか、そもそも今ある設備の中のどこに弱点があるのかを調べて、実際に管理をする上で大切なところを明らかにするのも安全性を高めるということに繋がるのです。弱点がどこで、全体としての安全性、対処能力を高めるにはどうしたらいいか、どういうやり方があるのかということです。

人がどのように行動すべきなのか、どのような体制を組むべきなのかも研究対象にしています。確率論的リスク評価というのがあって、ある装置はどれだけの頻度で壊れる、誤動作する、みたいな確率をもとにシステム全体としてはどれくらいの頻度で異常な状態になるか。そんな感じの評価を、確率をもとにやっています。

学生時代の思い出を教えてください。

私は大阪生まれの大阪育ちで、大阪大学に入学してから大阪大学以外に就職していません。大阪大学の工学部の原子力工学科に入った当時はまだ工学部に20個近く学科があったんですよ。1学年学科には40人もいないくらいで、1年生から4年生までずっと一緒に上がっていく感じですね。

研究室で自分の研究したいテーマを明確に決めたのは、研究室に配属される前ですね。原子力は大きく分けたら化学関係と物理関係に分かれるのですが、私は化学が好きじゃなかった。何とかの法則っていうのがやたらと多いイメージなんです。物理は割と元の式が1つだけで、そこからどんどん派生していただけなので、すごくシンプルなんです。ただ応用がちょっと難しくてなかなか使えないので、いかに使うかみたいのところですね。

化学は何とかの法則がいっぱい出てきて、それを勉強した人というか、経験ある人が幅をきかせるのは当たり前前って思ってしまって、それよりもみんながわかってる一本の式からアイデアでいろんな使い方を考える物理の方が若造でも太刀打ちできるんじゃないかって思ったんですよ。それでこの分野を選んだんです。研究室を選ぶときは、やれるやれないじゃなくてやってみたいところを選んだら間違いないですね。

入ってしまったら、努力するというのはみんな一緒だと思っし、やればみんなできます。大阪大学に合格してるんだからできます。

阪大生へのメッセージをお願いします。

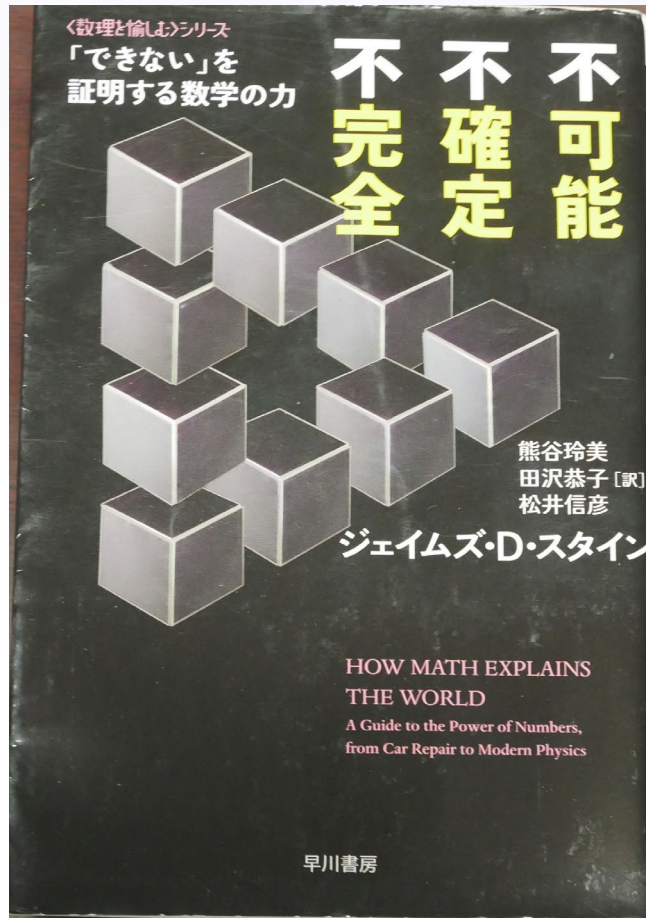
阪大生だけじゃない気がするんですけど、今の若い学生さんを見ていると、色んなものに興味があるんだなあ。勉強のプライオリティが結構下がっている印象ですね。別にそれが絶対悪いとも思わないんだけど、あとで後悔しないように少しやるべきことを考えたほうがいいんじゃないのかなっていうところがありますね。私の印象ではちょっと上の方との話が少ないんじゃないかなと思います。ちょっと上の先輩、例えば就職して何年くらい経ってるような先輩が出てくると、「こういう事やっとなの方がよかったよ」とかよく言われると思うんだけど、そういう人と話すことが経験として少ないんじゃないかなって。研究室を卒業してまだ2年くらいの先輩だったらまだ親近感があると思うんですよ。あと競争意識が低いですね。

自分でココだけやればいいやっていう線をすぐ引きたがる感じがある。ぶっちゃけ卒業の単位がそろったらいいわ、みたいな。卒業は目標の一つかもしれないけど、間違いなくまだ一つのマイルストーンであって、その次がどんどんあるはずなのに、こんだけ単位取ったからもういいやってやめちゃう。何のために大学来てんねやろって感じ。自分がこの後こういう事やってみたいっていうのを持っていれば、当然こういう授業を取りたいとかこういう勉強をしたいとかあるはずなんですけど、そういう目的意識を持った勉強っていうのが少ないかなという印象です。受け身の勉強をされているなっていう印象があって、もっと能動的にやってほしいなあという願望がありますね。

最後に1つ、私がだいぶ上の先生から教えてもらった勉強のやり方で、教科書の目次を覚えたらもういいっていうのがあって。その本に何が書いてるかを覚えたらいいと。例えば授業でこんなこと言ってたな、目次がこんななってるなっていうのだけ頭の片隅に残しといて、詳細は忘れてもしゃあない。端から端まで読むなんて不可能なんで、必要になったらどの本を読めばいいかっていうのを頭の中に入れておいて、必要な時に必要なところを読む。そこまでは勉強することは置いておいて大丈夫。覚えておくべきはどの本に何が書いてあるかの概略だけで、あとは必要なときにどれを見ればいいのかわかるし、そこから検索ワードを見つけることが出来るので芋づる式に何とかなる。勉強をある意味要領よくするっていう一つの方法なんですけど、いまだにそれがいいと思っています。

北田先生厳選！

参考図書のご紹介！！



不完全 不確定 不可能

ジェームズ・D・スタイン 著

熊谷玲美

田沢恭子 訳

松井信彦

(早川書房)

数学は、工学をやっていると基本的に道具なんですよ。使えればいいみたいなところがあって。数学で何ができるかを知っていると、役に立つ数学って結構見つかるんですよ。

HandaiWalker ってなあに？

HandaiWalker は、大阪大学生協学生委員会 (GI) 広報局が 2 カ月に一度発行している生協機関紙です。教授インタビューやおもしろ実験記事、みんなが気になるアレコレを調べてみる記事など、多くの記事を掲載しています。食堂や図書館などに置いてあるので、ぜひ手に取ってみてください！！

GI では HandaiWalker の他にも、オープンキャンパスでの相談会開催や、学祭での環境活動、生協の食堂や書店とのコラボ企画を行っています。ただいま部員募集中です！新入生の皆さん、ぜひ一度見学に遊びに来てくださいね！



生協学生委員会公式マスコットキャラクター ゴーちゃん

HandaiWalker

Web 特別号

おうちじかんに挑戦したい

炊飯器活用術



各家庭に1台はある炊飯器。お米を炊くだけに使っていませんか？

炊飯器でできることはこれだけではありません！実はボタン1つ押すだけで簡単に色々な料理が作れちゃうんです！

今回は炊飯器でできる「簡単おしゃれパエリア」を紹介します♪

パエリアMEMO

サフランを加えたお米と魚介や肉、野菜などを使って作るスペイン料理です。スペイン南東部のバレンシア地方で生まれ、“paella”はバレンシア語で「フライパン」を意味するそうです。ただ今回は「炊飯器」で作っちゃいます！

(<https://estudy.7match.biz/paella-spanish/>
最終閲覧日2020年6月11日)



材料 2人分

米	2合
パプリカ	1/2個
玉ねぎ	1/2個
シーフードミックス	100グラム
ミニトマト	8個
カレー粉	大さじ1
コンソメ	小さじ2
料理酒	大さじ1
水	350cc

作り方

- ①米を洗って水気をきる
- ②玉ねぎはみじん切り、パプリカは角切りミニトマトは半分に切る
- ③炊飯器に米と調味料を加えて混ぜ、玉ねぎ、シーフードミックス、ミニトマトを加えて炊く
- ④炊きあがったらパプリカを加え、10分程度保温する。器に盛り、お好みでパセリなどをかけて完成！



ふだん作らない料理に挑戦するのも
おうちじかんの過ごし方の1つ
です！炊飯器を活用して、色々な
料理を作ってみてください♪

Let's



Cook!

HandaiWalker ってなあに？

HandaiWalkerは、大阪大学生協学生委員会(GI)広報局が2カ月に一度発行している生協機関紙です。教授インタビューやおもしろ実験記事、みんなが気になるアレコレを調べてみる記事など、多くの記事を掲載しています。食堂や図書館などに置いてあるので、ぜひ手に取ってみてください！！

GIではHandaiWalkerの他にも、オープンキャンパスでの相談会開催や、学祭での環境活動、生協の食堂や書店とのコラボ企画を行っています。ただいま部員募集中です！新入生の皆さん、ぜひ一度見学に遊びに来てくださいね！



生協学生委員会公式マスコットキャラクター ゴーちゃん

抹茶

M A T C H A



歴史

私達日本人の生活に深く根付いているお茶は今や海外でも「MATCHA」として親しまれています。そしてその歴史は1200年前中国から伝来することで始まります。

日本独自の発展を遂げてきたお茶の歴史を紹介しましょう。

805年

最澄、空海や永忠らの遣唐使が中国から茶種を持ち帰る。

1211年

栄西が『喫茶養生記』で茶の種類や抹茶の製法、薬効を説く。

平安末期

みょうえ明恵上人が京都とがのお栞尾の高山寺に茶種を植え、お茶を奨励する。(これが最古の茶園といわれている)

南北朝・室町

貴族や武士に喫茶が広がる。

安土桃山

茶の湯の作法が、村田珠光、武野紹鷗たけの じょうおうや千利休らにより完成する。

1654年

中国の福建省から渡来した隠元禅師が、急須でお茶をいれる文化を日本にもたらす。(この頃の茶は緑ではなく茶褐色)

1738年

永谷宗円が煎茶の作り方(宇治茶製法)を確立し、味も香りもよい緑の煎茶は江戸で大人気となる。

現在

"MATCHA"という言葉が世界で通じるほど広く認知され、抹茶味が定番化する。

参考文献：角山栄『茶の世界史 緑茶の文化と紅茶の社会』(中公新書、2017年)、
松崎芳郎『[年表] 茶の世界史』(八坂書房、2012年)



番外編

お茶といえば静岡だら!! ~静岡県民によるお茶のご紹介~

我が家では家でご飯を食べるときはほぼ毎食急須で淹れたお茶を飲んで、なんなら食後も飲んでたに。

阪大にきて驚いたんだけど、今時急須で淹れたお茶を飲む家は少ないだら？だからこの機会に急須での美味しいお茶の入れ方を教えるに！

まず始めに沸騰したお湯を湯飲みに移して少し冷やす。お茶葉が入った急須に入れて、次にそのまま30秒から1分ほど蒸らす。そしたら人数分の湯飲みにお茶の濃さが均等になるように少しずつ順番に淹れる。これで甘くて美味しい急須で淹れたお茶が飲めるだに！皆さんも是非お試しを！

効能

抹茶の別名は"和のスーパーフード"。実は抹茶にはたくさんの効能が含まれています。みなさんも抹茶を飲んで健康を目指し茶(ちゃ)お！但し、飲みすぎには注意してくださいね。

抗菌作用 ※新型コロナウイルス感染の予防の効果があるかについては判明しておりません。

緑茶でうがいをするとう風邪予防に効果的とよく聞きますよね。これは緑茶に含まれているカテキンの作用です。抹茶にもカテキンはたくさん含まれています。カテキンはインフルエンザをも防ぐとも言われています。夏風邪を防ぐためにも抹茶を飲んでみるといいかもしれません。

美容効果

ビタミンCなど美容によく効く成分が含まれている抹茶にはアンチエイジング効果も。ポリフェノールの含有量は緑茶の2倍ともいわれています。抹茶を飲むあなたはキレイですよ。

虫歯予防

歯磨き粉に含まれているフッ素、実は抹茶にも含まれているんです。虫歯を防ぐ効果もあるんですよ。ですが抹茶を飲んでる人でも歯磨きはしましょうね！

※抹茶にはカフェインが含まれているので、寝る前は飲まない方がいいでしょう。食前に飲むとダイエット効果が期待できるそうです。

参考資料：抹茶の効能と栄養 | 良好倶楽部

<https://ryoko-club.com/food/matcha-nutrition.html#m05>

最終閲覧日：2020/05/31



お試しレシピ 抹茶&甘酒

甘酒の優しい旨みに、抹茶の香りとほろ苦さ。コク深い味わいが広がる大人の飲み物、抹茶&甘酒。夏バテ防止にいかが？

材料 (1人分)

抹茶粉末 小さじ2 ・ 甘酒125ml ・ お湯 大さじ2

作り方

- 一、抹茶粉末をお湯で溶く。(ダマにならないようによく混ぜる)
- 二、グラスに入れた甘酒に、一の抹茶を注ぐ。
- 三、氷を浮かべたら「抹茶&甘酒」の出来上がり♪



HandaiWalker ってなあに？

HandaiWalkerは、大阪大学生協学生委員会(GI)広報局が2カ月に一度発行している生協機関紙です。教授インタビューやおもしろ実験記事、みんなが気になるアレコレを調べてみる記事など、多くの記事を掲載しています。食堂や図書館などに置いてあるので、ぜひ手に取ってみてください！！

GIではHandaiWalkerの他にも、オープンキャンパスでの相談会開催や、学祭での環境活動、生協の食堂や書店とのコラボ企画を行っています。ただいま部員募集中です！新入生の皆さん、ぜひ一度見学に遊びに来てくださいね！



生協学生委員会公式マスコットキャラクター ゴーちゃん